



## 「シュレッダー」

しなければならぬ紙の情報があるわけではないが、最近では若干習慣化して、シュレッダーを通さないと落ち着かないという気持ちになってくる。これではシュレッダーはシュレッダーで進んでいない。ITやパソコンが進んでいるにも関わらず依然として、紙情報は院長室の机から去らない。「捨方求」が私の主な仕事となっている。シュレッダーの前に立っていて腰痛症にならないかと心配している。だれがこんな機械を考えたのか調べた。うどん屋の製麺機を見て、これの逆を機

械にさせてはどうかと思いついた人が、発明者となったという。だれにでも機械を発明するチャンスはあったのに、普通の人たちには目の前の現象を逆にみることはできないようだ。われわれには単純なことがみえないのである。

商品はつきつきと生産される。ヒット商品番付表をみても私には半分もわからない。ヒット商品といわれるものが、一般人の生活圏から遠いところで回りだしたのかとも思う。どれだけの人がしっかりと現実感をもって生活しているのかなあと若干心配になった。

日経MJに2005年上期ヒット商品番付が発表された。「シュレッダー」は西の小結にはいった。これは4月1日の個人情報保護の完全施行を機にヒットしたからである。百貨店では前年比2.5倍を記録したという。院長室にも3年前からシュレッダーが置いてあり、重宝している。それほど秘密に

エチといわれても仕方がない。ITやパソコンが進んでいるにも関わらず依然として、紙情報は院長室の机から去らない。「捨方求」が私の主な仕事となっている。シュレッダーの前に立っていて腰痛症にならないかと心配している。だれがこんな機械を考えたのか調べた。うどん屋の製麺機を見て、これの逆を機

医学博士 西浦信博

(京阪病院院長)

AGORA

2005年8月1日